

主 題：主があなたに求めておられること 3

聖書箇所：テサロニケ人への手紙第一 5章19-22節

主がどんなことを私たちに求めておられるのか？そのことを私たちは学んでいる訳で、私たちはこの16節から七つの神からの命令、勧告を学び始めました。前回、三つのことを見て来ました。

B. 主に対する責任 16-22節

1. 喜び続けること 16節 = いつも喜んでいなさい」
2. 祈り続けること 17節 = 絶えず祈りなさい
3. 感謝し続けること 18節 = すべての事について、感謝しなさい。

このように生きなさいと神は私たちに命じておられます。前回見たように、まさに、これは私たちの理想でもあります。いつも喜んでいて、すべてのことに感謝できる人、しかし、現実には、私たちはそのようなことを実現すること、実行していくこと、そのように生きていくことは難しいことだとよく知っています。「確かに、命令はすばらしい。しかし、実行はなかなかです…」と思われるかもしれません。パウロはそういう私たちの弱さをよく知っています。ですから、18節にこのように続いています。「これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。」と。パウロはここで二つのことを約束しています。それは16-18a節の三つのことが主のみこころであることと、もう一つはどうすればそれが実践できるのかということです。

(1) 主のみこころ：「神があなたがたに望んでおられること」とありますが、「望んでいる」ということばは「意志、願望、意向」と訳せます。つまり、パウロはここで、このようにあなたが生きていくこと、それが神の願望であり意志だと言うのです。私たちは「みこころ」と言いますが、まさに、ここに神のみこころが記されているということです。神が私たちに何を望んでいるのか？それはこのように生きることであると言うのです。

(2) 実践の秘訣：次のことばを見てください。「キリスト・イエスにあって」とパウロが敢えてこのように記したのは、どうすれば私たちが今言ったような生き方を実践できるのか、その秘訣を言おうとするからです。私たちはいつも喜ぶ人になりたいと思って頑張るのですが、続きません。すべてのことに感謝したいと思って生きるのですが、長続きしません。その原因は、私たちが自分の力でやろうとするからです。聖書はそんなことを私たちに教えていません。「このように生きなさい、それが神のみこころだ。」と言ったパウロは、では、どうすればそれが実践できるのかを教えてください。それが「キリスト・イエスにあって」ということです。つまり、主イエス・キリストがそのことを可能にしてくれるということです。思い出してください。ピリピ2：13でパウロはこう言います。「神は、みこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、…」と、ここでパウロが言ったことは、神は私たちの心の中に働いて、このように生きていきたいという願い、志を与えてくださるお方だということです。ですから、皆さんがこうしてみことばをご覧になって、そして、神のみこころだということを聞いたときに、少なくとも、イエス・キリストを信じているあなたの心の中には、「私はそのように生きていきたい」という思いを頂くはずで、そのことを言っているのです。神はそういう願いをあなたのうちにくださると。

でも同時に、私たちが覚えておかなければいけないことは、それを実践するためには同じように神のアドバイスに耳を傾けなければいけないということです。ピリピ2：13には続けて「事を行わせてくださるのです。」とあります。ですから、「神は、みこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださるのです。」、そこにこのみことばの実践の秘訣があるのです。

聖書が私たちに教えることは「あなたはいつも喜ぶ者として生きていくことができます。すべてのことに感謝して生きることができます。でも、そのためには神の助けが必要です。」ということです。少なくとも、この救いに与っている皆さん、このことは神の助けを頂くことによってあなたはこのような人として日々を過ごしていくことができるというすばらしい約束です。あなたの意志をどれ程強めようと、あなたの生き方を変えようと、あなたの努力によってはこんな生き方は不可能です。でも、神がそのような生き方を実践させてくださる、そのように生きる人へとあなたを変えてくださる、それが神の約束です。少なくとも、私たちはこのみことばによって大きな励ましと希望を頂くはずで、

続いて、四つ目の命令を見ていきましょう。どのように生きることが神に喜ばれるのか？

4. 御霊を消してはなりません 19節

この「消す」とは、確かに、「消す」という意味とともに「抑圧する」という意味を持っています。つまり、ここで言われていることは「聖霊の働きを抑圧してはいけない。差し止めてはいけない。」です。「聖霊なる神があなたのうちで働きを始められた、その働きを妨げてはならない。」ということがここでの命令です。

なぜ、そのことが私たちにとって大切なのか？なぜ、聖霊なる神の働きを止めてはならないのか？言い方を変えると、なぜ、聖霊なる神に働き続けて頂かなければいけないのか？大切な理由があります。主イエス・キリストを信じた私たちに、聖書は「その人のうちに聖霊なる神が宿る」と約束してくださっています。だから、クリスチャンは聖霊なる神を頂いている人たちです。聖霊なる神が内住している人たちです。なぜ、聖霊が必要なのか？なぜ、聖霊の働きが私たちにとって大切なのか？思い出してください。主イエス・キリストが「わたしは聖霊を父なる神にお願いして送って頂く」と話した時に、「わたしはもうひとりの助け主をあなたがたに送って頂くようにお願いする。」と言われました。「助け主を送る」とイエスは約束されました。クリスチャンであるあなたに神は助け主を与えてくださった、それが聖霊なる神です。では、いったいどのような面においてこの聖霊は助けを与えてくださるのでしょうか？四つのことがあります。

◎聖霊の助けはどのような面与えられるのか？

1) 信仰の成長のために

私たちがよく覚えているみことばですが、Ⅱコリント3：18に「私たちはみな、顔のおおいを取りのけられて、鏡のように主の栄光を反映させながら、栄光から栄光へと、主と同じかたちに姿を変えられて行きます。…」とあります。私たちイエス・キリストを信じる者たちを神は栄光から栄光へと、主イエス・キリストに似た者へと変えていかれます。それがこの箇所が教えていることです。イエス・キリストによって救われた皆さんは、その瞬間から、神が主イエス・キリストに似た者にあなたを変えていかれるのです。そのプロセスが始まったのです。しかし、この働きはだれによる働きかという、「これはまさに、御霊なる主の働きによるのです。」、だから、聖霊なる神があなたに与えられたのは、その聖霊なる神の助けによってあなたが主イエス・キリストに似た者に変えられていくためです。ですから、その働きを妨げてはいけないと言うのです。神はあなたが主イエス・キリストに似た者に変えられていくことを望んでおられます。そのために神は助けを与えてくださったのですから、その助けを拒んではならないということです。

2) 忠実な奉仕を継続するために

a) 教会が増え広がっていった

主イエス・キリストが天に凱旋される前に弟子たちに言われました。使徒の働き1：8「しかし、聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。」、何のために力を受けるのですか？「そして、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、および地の果てにまで、わたしの証人となります。」、救いに与った者たちはこのすばらしい神のことを人々に伝えるために救いに与ったのです。でも、その働きを忠実にこなすために私たちには力が必要なのです。主イエス・キリストが言われたように「あなたがたに聖霊なる神が与えられる」と、つまり、力が与えられるということです。聖霊がそのような力を与えてくださり、その力によってこの働きをあなたがたは為していくと言うのです。ですから、実際に「使徒の働き」を見て行くと、ここには教会がどのように誕生していったのか、その歴史が記されているのですが、9：31には「こうして教会は、ユダヤ、ガリラヤ、サマリヤの全地にわたり築き上げられて平安を保ち、主を恐れかしこみ、聖霊に励まされて前進し続けたので、信者の数がふえて行った。」と書かれています。教会が励まされて、教会が益々キリストのすばらしさを伝えて行ったと言うのです。教会とは建物のことではありません。救いに与ったひとり一人のクリスチャンのことです。聖霊なる神が彼らを励まして、そして、励まされた彼らがキリストのすばらしさを宣べ伝えて、その結果、多くの人々がこの救いに導かれたと教えているのです。ですから、確かに、聖霊なる神が与えられ、力を頂いて、そして、人々はその働きを為したのです。

b) パウロも働きのために一番必要なのは聖霊であると言う

パウロ自身も彼の宣教に関してこのように言っています。Ⅰコリント2：4「そして、私のことばと私の宣教とは、説得力のある知恵のことばによって行われたものではなく、御霊と御力の現れでした。」と。パウロ自身が私たちに教えることは、パウロ自身が行なった宣教の働きは、彼の知恵によって為されたものではなく、神の力によって為されたものだということです。私たちはどんなに知恵のあることばを語ったとしても、聖霊なる神が働いていなければ神のみこころはなされないので。パウロの宣教はこの御霊と御力の現れだった、聖霊なる神のみわざによってそのような働きを為したと言います。ですから、

私たち信仰者も同じです。神から与えられた賜物を用いて主に仕えて行くためにも、このキリストのすばらしさを証していくためにも、私たちは間違いなくこの聖霊の助けを頂きながらその働きをしていかなければいけないのです。そのために聖霊が与えられていると言います。

3) 主のみこころを知るために

ヨハネ 14 : 26には「しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、また、わたしがあなたがたに話したすべてのことを思い起こさせてくださいます。」とあります。主イエスは聖霊なる神があなたにその真理をしっかりと悟るように働いてくださると言います。聖霊なる神の働きは、私たちに神のすばらしい真理を明らかにすることです。パウロはそのことを I コリント 2 : 10 でこのように伝えています。「神はこれを、御霊によって私たちに啓示されたのです。御霊はすべてのことを探り、神の深みにまで及ばれるからです。」と。御霊によって私たちに啓示された、つまり、聖霊なる神によって父なる神はあることを私たち人間に明らかにされたと言うのです。何を明らかにされたのか？それは神の真理です。この働きがなければ私たちは神のことについてごくわずかしか知ることができなかつた。でも、神のその真理を聖霊が明らかにすることによって私たちはそれを知ることができたのです。ですから、その前の 9 節には「まさしく、聖書に書いてあるとおりです。『目が見たことのないもの、耳が聞いたことのないもの、そして、人の心に思い浮かんだことのないもの。神を愛する者のために、神の備えてくださったものは、みなそうである。』」とあります。つまり、神が働かなければ私たちは神の真理を知ることができないのです。

そして、聖霊なる神は神の真理を明らかにするために働いてくださったのです。「啓示された」とあります。どういう方法で啓示されたのか？神のおことばというこの書かれた聖書によって私たちに神の真理を明らかにしてくれたのです。聖書を書いたのはいったいだれですか？本当の著者は聖霊なる神です。その方が神の真理を明らかにしたのです。なぜ、それができたのか？聖霊なる神ご自身が神だからです。この方は父なる神のすべてのことを知っておられるからです。ですから、聖霊なる神だけが父なる神のご計画を、その考えを、その真理を明らかにすることができたのです。それをこうして私たちが実際に活字として見るように神は私たちに与えてくださったのです。ですから、聖霊なる神の働きは、神のみこころを明らかに私たちに教えてくれます。皆さんが聖書のみことばをお読みになる時には心の中で「主よ、どうぞこの正しいすばらしい真理を正しく理解できるように。」と願います。聖霊なる神が皆さんを助けてくださって、その真理を知ることができるのです。

もちろん、こうして私たちがともに集まる時にも神のおことばを見て、そして、そのみことばをもって神のみこころを知ります。私たちがみことばを学んでそれを皆さんにお伝えするのも、このみことばを通して私たちが神の真理を知ることができるからです。なぜなら、聖霊なる神が神の真理をこのように明らかに私たちに分かる方法で提供してくださったからです。ですから、聖霊なる神は私たちに神のお考えを、神のご計画を、神のみこころを明らかにしてくださるのです。ですから、私たちが神のみこころを知ろうとするなら、私たちは神が私たちに与えてくださったこの啓示を見ることです。そのことによって私たちがそれを知ることができるのです。そして、聖霊なる神は私たちに助けてそれを明らかにしてくださるのです。

4) 喜びの生活を歩み続けるために

I テサロニケ 1 : 6 に「あなたがたも、多くの苦難の中で、聖霊による喜びをもってみことばを受け入れ、私たちと主とにならう者になりました。」と記されています。テサロニケのクリスチャンたちも多くの苦難の中でも喜びを持っていました。その喜びは「聖霊による喜び」と書かれています。聖霊なる神は人々にこのようなすばらしい喜びを与えてくださると言うのです。

結論

今見て来たことをまとめてみましょう。イエスを信じているあなたに内住されている聖霊なる神は、あなたを主イエス・キリストに似た者へと変えようとしています。ですから、この「聖霊を消す」とは聖霊の働きに抵抗すること、その働きを妨げることです。あなたを変えていこうとしているその聖霊の働きを妨げることです。聖霊を消すことに関して、

a) それは、聖霊に支配されることも、支配され続けることも、聖霊が喜ばれることを行ない続けることも、聖霊に導かれ続けることも拒否することです。「神さま、私は自分の思い通りに生きていきます。」と、そのような選択をするなら私たちは聖霊を消してしまうのです。なぜなら、あなたを変えようとする聖霊の働きをあなたは阻止し、自分の思い通りに生きていこうとするからです。しかし、先ほどから見てるように、私たちが自分の思い通りに生きることによって本当の喜びを得ることができるかということ、それは不可能だと私たちは知っています。神によってのみそれを得ることができるのに、

その神にNOと言いつけるのです。これは悲しいことです。

b) もう一つは、私たちが成長させてくれる神のおことばである聖書に対してもNOと言うことです。見て来たように、神は神ご自身の真理を私たちに分かる方法で与えてくださった、それが聖書です。神の啓示が記されています。神のメッセージが記されています。そのみことばに私たちが「NO」と言うことは、悲しいことに、聖霊を消すことになるのです。なぜなら、聖霊なる神は聖書のみことばを通してあなたのうちに働こうとするからです。だから、「聖霊を消す」とはあなたの信仰が成長するために不可欠な聖書を読もうとしない、学ぼうともしない、その真理を適用しようとしなないことです。その人のうちに信仰の成長は見られません。聖霊を消しているからです。

今、この聖書のことを話しました。皆さんに是非見ておいて頂きたいことは、今私たちが学んでいるこの七つの命令を見て、そこにはどこにも区切りがないということです。すべて関連しているのです。19節は「聖霊なる神の働きに対して」でした。だから、次の命令があるのです。

5. 預言をないがしろにははいけません

20節に「預言をないがしろにははいけません」とあり、預言のことに移ります。

1) 「預言」とは？

- ・「預言」＝神からの啓示です。今私たちが見て来た通りです。
- ・「預言者」＝神から特別に選ばれた者です。彼らは聖書の完成の時まで、神からの啓示を人々に伝えたのです。つまり、神のメッセージを人々に語ったのです。

a) まだ起こっていない将来のことを告げる人

だから、聖書を見ると「預言者を通して言われたことが成就するためであった」ということばが繰り返し出て来ます。預言者は「これからこのようなことが起こる」ということを告げたのです。そのような働きをしました。

b) 現在における神のメッセージを告げる人

同時に、その時代にあつて人々に神からのメッセージを伝えました。「これが神が言われたことだ」と神からのメッセージを伝えました。話しことばをもって、また、書きことばをもって、神のメッセージを彼らは伝えたのです。

・ことばによって：使徒の働き13：1-3「さて、アンテオケには、そこにある教会に、バルナバ、ニゲルと呼ばれるシメオン、クレネ人ルキオ、国主ヘロデの乳兄弟マナエン、サウロなどという預言者や教師がいた。：2 彼らが主を礼拝し、断食をしていると、聖霊が、「バルナバとサウロをわたしのために聖別して、わたしが召した任務につかせなさい」と言われた。：3 そこで彼らは、断食と祈りをして、ふたりの上に手を置いてから、送り出した。」、同じ使徒の働き15：30-32「：30 さて、一行は送り出されて、アンテオケに下り、教会の人々を集めて、手紙を手渡した。：31 それを読んだ人々は、その励ましによって喜んだ。：32 ユダもシラスも預言者であったので、多くのことばをもって兄弟たちを励まし、また力づけた。」、このように使徒たちは出て行って神のメッセージを語りました。

・筆記によって：Ⅱペテロ1：20-21「それには何よりも次のことを知っていなければいけません。すなわち、聖書の預言はみな、人の私的解釈を施してはならない、ということです。：21 なぜなら、預言は決して人間の意志によつてもたらされたのではなく、聖霊に動かされた人たちが、神からのことばを語ったのだからです。」、預言は人間の意志によつてもたらされたのではない、この聖書のみことばは聖霊によつて用いられた人たちが神のメッセージを記したものです。こうしてこれが神のメッセージだと活字でもって記されたのです。私たちは今それを手にしているのです。

2) ないがしろにするな

確かに、預言者は神から啓示を頂いてそれを語りました。そして、預言者は神からの啓示を記したのです。人々は実際にことばを通して、また、記されたものを通して神のみこころを知ることができたのです。ですから、このⅠテサロニケ5：20で「預言をないがしろにははいけません。」と言われているのは、言い方を変えると、神のメッセージをないがしろにはならない、神が与えてくださったその真理をないがしろにはいけないということです。それらを軽蔑したり軽んじたりしてはならない、神のおことばをないがしろにはならないと言うのです。

では、なぜ、神のおことばが私たちに大切なのでしょうか？少なくとも、六つのことがあります。

(1) 神を知るため

私たちは神がお造りになったものを見る時に、神についてある程度の知識を得ることができます。神がお造りになった自然界の美しさを見る時に、神は美を愛するお方であることは明らかです。神が造られたものを見る時にそこに凄い力と知恵があることが分かります。そのような創造主だということを私

たちは知ることができます。でも、それには限界があります。だから、今見て来たように、神によって啓示が、この聖書が与えられたのです。聖書によって、私たちは創造主なる神のを知ることができます。創世記1章1節は「初めに、神が天と地を創造した。」から始まります。この世界のすべてのものはあなたをお造りになった方がだれなのかを明かにしています。「あなたは偶然生まれて来たのではない、造られたのだ。」と聖書は明らかにするのです。だれによって造られたのか？何のために造られたのか？私たちは私たちが造ってくださったこの方を知ることが必要です。それによって私たちの生き方が変えられていくからです。でも、そのためには、私たちには神の助けが必要なのです。そして、神は聖書を私たちにくださったのです。これを通して私たちは神を知ることができるのです。

(2) 霊的成長のため

皆さんもよく覚えておられるように、Ⅱテモテ3：16－17で「聖書はすべて、神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益です。：17 それは、神の人が、すべての良い働きのためにふさわしい十分に整えられた者となるためです。」と教えられています。あなたの信仰が成長していくためにこの聖書のみことばが必要だと言っているのです。また、使徒20：32には「いま私は、あなたがたを神とその恵みのみことばとにゆだねます。みことばは、あなたがたを育成し、すべての聖なるものとされた人々の中にあって御国を継がせることができるのです。」とあります。あなたの信仰が成長していくためにはこの聖書のみことばが必要なのです。問題は、聖書のみことばを皆さんが本当に愛してしっかり学び、その適用に努めているかどうかです。聖書はあなたの信仰を成長させると言います。

(3) 誘惑に勝利するため

あなたが日々直面する様々な誘惑に勝利するために聖書が必要であると言います。詩篇119：9－11をご覧ください。「：9 どのようにして若い人は自分の道をきよく保てるでしょうか。あなたのことばに従ってそれを守ることです。」、みことばは非常に分かり易く教えています。どうすれば罪から離れて正しく歩むことができるか？あなたが神のみことばに従ってそれを守ることだと言います。10節「私は心を尽くしてあなたを尋ね求めています。どうか私が、あなたの仰せから迷い出ないようにしてください。」、どうしてこのような祈りをしているのか？主の教えであるみことばに従っていきたいからです。そして、11節「あなたに罪を犯さないため、私は、あなたのことばを心にたくわえました。どのようにして若い人は自分の道をきよく保てるでしょうか。あなたのことばに従ってそれを守ることです。」、どうすれば、私たちは様々な罪の誘惑に勝利していくことができるのかをこのみことばは教えてくれています。

ですから、私たちが罪の中を歩んでいるときは聖書から距離を置きたいです。聖書のことなど聞きたくない、聖書も読みたくない、聖書を近づけて欲しくもないと。しかし、聖書があなたを罪から守ってくれるのです。そして、この119：92には「もしあなたのみおしえが私の喜びでなかったら、私は自分の悩みの中で滅んでいたでしょう。」とあります。著者も「多くの悩みがある」と言っているのです。ここで使われている「悩み」とはどちらかと言うと病気などによる心身の苦痛、悩みです。私たちも経験することです。その中であって著者は「もし、神のおことばが私の喜びでなかったら、私は自分の悩み苦しみの中で滅んでいたでしょう。この苦しみに押しつぶされたでしょう。」と言いますが、このように言っているのは押しつぶされなかったからです。いろんな苦しみの中で身体的な苦しみの中で、それが自分を押しつぶしそうとするような中で、著者はそれに負けなかったのです。「私は神のみことばを喜んでいたので」と、神のみことばを愛していたからこの著者は勝利できたのです。神のみことばを聞くことを愛し学ぶことを愛し、それを喜んで実践しようとしていた、そういう人であったから「私はこの困難の中で、苦しみの中でそれに押しつぶされることはなかった。」と言うのです。

もう一箇所、同じ119：143を見てください。「苦難と窮乏とが私に襲いかかっています。しかしあなたの仰せは、私の喜びです。」、ここでも著者は大変な苦しみを経験していると教えているのです。ここではどちらかと言うと、その苦しきは精神的な苦痛を表わすことばを使っています。大変な苦しい状況、苦難と窮乏の中で精神的な苦痛を経験している中であって、辛い状況、精神的にも追いつめられた状態、そのような状態は私たちも経験することがありますが、そういう中であって著者は「それでも私はそれらに負けなかった」と言うのです。なぜなら、「あなたの仰せは、私の喜びです」と言います。神が言われる命令、そのみことばは私にとっては喜びだと言うのです。私たちの信仰の先輩はどのようにして生きていったのでしょうか？彼らが教えていることは、彼らは常にみことばに戻ったのです。彼らは常にみことばに立ったのです。聖書に助けを求めたのです。そして、彼らはその助けを頂いたのです。

いろいろなことによって私たちは誘惑を受けます。それは神以外の所を見ることです。神を信頼しないで他を信頼するようという誘惑です。神の道から外れて行くようにと。しかし、信仰の先輩たちは神のおことばに立ったのです。「私の喜びは神のおことばです」と。このような人たちはみことばを聞

くことをいつも喜びとしていました。この人たちは「もう今日は忙しいから聖書を読まないでおこう、二、三日読まなくても死にはしない！」と言う、そのような信仰者ではなかったはずで、彼らは常にみことばに立ち返ろうとした、常にみことばを読もうとした、常にみことばに触れていようとした。なぜなら、みことばは私たちがそのような誘惑から勝利する力を持っているからです。

思い出してください。先ほども言ったように、罪の中を生きているときは、私たちはみことばから距離を置きたいです。逆に、私たちがいつもみことばを読み、みことばを本当に愛しているときは、神に感謝をささげ続けています。神に喜ばれることを考えて、それを為していこうとしているときには、間違いなく、私たちは神のみことばを愛し、みことばに触れています。読まなければいけないから読んでいるのではありません。神のお声を聞きたいから読んでいるのです。神を知りたいから読んでいるのです。愛する神のことをもっと知りたいからと、そのようにして信仰者は生きていったのです。そして、その結果、彼らはこのような様々な誘惑に勝利していったとみことばが教えるのです。

(4) みこころに沿って生きるため

私たちがみこころに沿って生きていくために聖書を外すことはできません。詩篇 119 : 105 には「あなたのみことばは、私の足のともしび、私の道の光です。」とあります。聖書は私たちに「このように生きていきなさい」と教えてくれます。私たちがいつもそのようにしています。私たちはここで神のみこころは何かを学んでいるのです。私たちがどのように生きていくことを神が望んでおられるのか、それを見ているのです。

(5) 幸せを得るため

みことばはあなたに幸せを与えてくれます。ルカの福音書の中にこのような話が記されています。主イエス・キリストが悪霊を追い出します。口を利けなくする悪霊を追い出されたのです。すばらしい働きだと人々は驚嘆します。そこで、ある一人の女性がイエスにこんなことを叫ぶのです。「あなたを産んだ腹、あなたが吸った乳房は幸いです。」(ルカ 11 : 27) と。彼女がなぜこんなことを言ったのか？少し描いてみてください。イエスの奇蹟を見て「あなたのお母さんはすばらしい祝された人ですね。あなたのような人を息子としたのですから。」と、主イエス・キリストのすばらしみわざを見た時に「あなたのお母さんは、あなたの身内はすばらしい祝福に与っていますね。こんな偉大な人の母であり、こんな偉大な人の兄弟だから、数ある人々の中であなたのお母さんは最も幸せな人ですね。」と、そのように言ったときに、主イエス・キリストが何と答えられたのか？ 11 : 28 「いや、幸いなのは、神のことばを聞いてそれを守る人たちです。」でした。一番幸せな人は神のことばを聞いてそれを守る人だと言われました。主イエス・キリストご自身のことばがこのように教えるのです。ですから、神の約束された幸いを頂きながら私たちは生きることが出来るから、私たちはみことばをしっかりと見ないとはいけません。しかし、往々にして私たちはみことばから距離を置いてしまっています。そのような歩みをしていませんか、皆さん？みことばを読むことを日々楽しみにしていますか？みことばのために喜んで時間を割こうとしていますか？聖書が私たちに言っていることは、神のことばを聞いてそれを守る人たち、その人たちが幸いな人だということです。

なぜ、聖書大切なのか？神を知るために必要であり、また、信仰の霊的成長のために必要であり、そして、私自身が神のみこころに従うためであり、私たちが誘惑に勝利するためであり、そして、幸せを得るためであり、そして、最後の六つ目は救いを得るためにです。

(6) 救いを得るため

Ⅱテモテ 3 : 15 に「また、幼いころから聖書に親しんで来たことを知っているからです。聖書はあなたに知恵を与えてキリスト・イエスに対する信仰による救いを受けさせることができるのです。」とあります。私たちはどのようにしてこの信仰に与ったのか？みことばに触れることでした。みことばのメッセージを聞くことからでした。ですから、この聖書を見た時に、罪人を救いに導くために神はこの聖書をお用いになっています。だから、私たちはこの聖書を慈しみ、そして、聖書を心から愛し、このみことばを決してないがしろにしないのです。大切なものだともみことばが教えています。

今日、私たちが見て来たことをまとめてみましょう。Ⅰテサロニケ 5 章に戻ってください。パウロは私たちに、どのような生き方を神が私たちに望んでいるのかを教えてくださいました。もうすでに、あなたのうちに聖霊が与えられ、聖霊はあなたを変えようとしてくださっている。主はあなたを生まれ変わらせてくださり、この地上にあってあなたがこの神のすばらしさを人々に明らかにするためにあなたを救ってくださった。そして、その目的を達成するために主はあなたを変えようとしてくださっている。でも、もしあなたがそのことを望んでいないなら、悲しいことに、その働きはあなたの中でスムーズになされるのではなくて、その働きが滞ってしまう。だから「消してはいけない。」と言います。聖霊なる

神の働きの妨げをしてはならない、あなたが益々変えられることを願って、そして、主が喜ばれることを選択していきなさいと言います。そして同時に、私たちは私たちを変えていってくださる聖霊なる神に、そして、聖書のみことばにしっかり目を留めて、そのみことばに従うことが必要だと言います。

ですから、今日見て来たのはこのような生き方です。一つは、「主よ。どうぞ私を変え続けてください。」と神に助けを求めていくことです。そして同時に、神が私たちに与えてくださったみこころが記されているこの聖書のおことばを愛して、しっかり学んでそれに従って行こうとすることです。そのときに、私たちが変えられ続けていき、そして、私たちは主が望んでおられる主のみこころに適った生き方を歩み続けて行くことになるのです。

願わくは、神が皆さんの心に働いてくださって、聖霊なる神にすべてを委ねて生きることがいかにすばらしいことであるかを確信させてくださることを願います。同時に、神が私たちに与えてくださったこのみことばを愛する者として、何よりも愛する者として、このみことばの教えに従っていただきたい。あの宗教改革を行ったマルチン・ルターは、自分の赤子を抱くように聖書のみことばをいつも胸を抱いていたと言われていました。そういう人を神はお使いになります。神のみことばを愛してこの教えに従って行こうとする、そのような人たちです。

信仰者の皆さん、そういう人になることを神は望んでいるのです。なぜなら、あなたは神を愛しているからです。神を愛している人は神の与えてくださったこのみことばを愛する者です。みことばを愛して、みことばに従い、そして、私たちの愛する神のすばらしさを人々に明らかにして行くことです。そのために、私たちが正しい選択をもって、つまり、このみことばに従うという決心をもって、この教えに従って行くことです。どうぞ、その歩みをもってこの一週間歩んでください。神は間違いなくあなたを用いてくださる！！

《考えましょう》

1. 「御霊を消してはなりません。」とは、どういう意味でしたか？
2. 「御霊を消す」ためにはどうすればいいのでしょうか？ では、「御霊を消さない」ためにはどうすれば良いのでしょうか？
3. 「預言をないがしろにはいけない」とは、どういう意味でしたか？
4. どうして「聖書のみことば」が大切なのでしょうか？